

るつもりです。

◇湖面はどこも藻のジユウタン
和田入から新利根河口、牛堀にかけては、全くマコモとカバとヨシ、雑草の林。湖面はと云えば、厚い藻のジユウタンが一面に敷きつめられた状態の連続。

この藻のジユウタンは、この辺ばかりの現象ではなく湖畔の殆どが、岸から二、三百米或は五百米乃至七百米もの沖まで、全くひどいものです。10馬力エンジンのスクリーナーが停るほどです。

◇アオコ発生の恐怖

かくて8月中旬にもなると、あの恐るべきアオコが発生し、鯉を始め、すべての魚類が死に、湖水に入った人は皮膚炎を起こすという大変な事態の起こることを心配せねばならないように思う。

ここで、昨年夏の養殖鯉の大量死を顧みる必要がある。当時は北東の風で、湖底の無酸素状態の水と表面の水とが混攪されて、表面までも甚だしい酸素欠乏を来たして鯉が大量に死んだのだと云うが、今年とは去年とは少し趣きが違うように思う。今年、昨年のように風らしい風は吹いていない。にもかかわらず、昨年よりも鯉の死が一ヶ月半も早く起っている。これは逆水門の閉鎖が原因だと云うが、外にもいろいろ重大な原因があるのだろう。

何れにせよ。去年よりも酸素欠乏のひどいことを示しているのではないだろうか。だから鯉だけでなく、アミが水面に浮き上ったり、貝やゴロが死んだりするのはないか。(宝山の逆水門の写真提供)

◇緑の水とマコモの国体

これでは、霞ヶ浦で行われる「水と緑のまごころ国体」が「緑の水とマコモの国体」にならねばいいかと、心配せずには居られません。楽しい水の国体でありますようにと念じます。

◇最後にお願

以上とりとめもなくお話しましたが、最後に皆様にお願ひが一つあります。私がこうして霞ヶ浦の周辺を歩いているのは、昔の霞ヶ浦と現在の霞ヶ浦とを比較してその汚濁を目で見ると本を作りたいからで、この本が少しでも霞ヶ浦浄化のためにお役にたてばと考えております。そこで皆様、或は皆様の御知合いの方で、古い霞ヶ浦に関係のある写真(どんなものでも結構です)をお持ちの方がございましたら是非お貸し願ひたいと存じます。御静聴を感謝します。

筆者の住所 東京都板橋区仲宿六四一―二

(電話) 〇三―九六四―四一八二番